

## 2024 年度医療安全管理者養成研修会 プログラム

## (1) 事前講習 2024 年 10 月 28 日(月)

時間	演題・講師（敬称略）	
第1回:09:00~10:00	第一部 全体向け案内	音声・映像確認、ZOOM 基本操作の案内(名前の変更、画面共有、チャット、ホワイトボード操作等)を実施します。
第2回:10:30~11:30		
第3回:13:00~14:00	第二部 グループワーク	演習グループ(12月5日のグループと同様)に分かれて、各グループで自己紹介、12月5日の役割分担(討議リーダー、書記係等)、画面共有をしながらの事前討議等を実施します。
第4回:14:30~15:30		
第5回:16:00~17:00		

\* 事前講習は下記 9:00~17:00 の時間帯で 5 回に分けて実施します。講習時間は各回 1 時間です。予め、受講者ごとに参加時間を指定させていただきます。

## (2) 講義 日程 A : 2024 年 11 月 11 日(月)~11 月 15 日(金)

日程 B : 2024 年 11 月 25 日(月)~11 月 29 日(金)

## ● 1 日目

時間	演題・講師（敬称略）	
8:30	開会:出欠確認開始	
9:00 (途中休憩あり)	講演	「これまでの医療安全の変遷と展望」
	講師	渡邊文子 厚生労働省 医政局地域医療計画課 医療安全推進・医務指導室 主査
10:40 頃	休憩(10分程度)	
10:50 頃	講演	「ヒューマンエラーと医療安全」
	講師	松村由美 京都大学医学部附属病院 医療安全管理部 部長・教授
11:50 頃	休憩(60分程度)	
12:50 頃	講演	「ヒューマンエラーと医療安全」
	講師	松村由美 京都大学医学部附属病院 医療安全管理部 部長・教授
13:50 頃	休憩(10分程度)	
14:00 頃 (途中休憩あり)	講演	「医療安全管理の基礎知識と医療安全管理者の役割」
	講師	南須原康行 北海道大学病院 医療安全管理部 教授
17:20	終了	

● 2日目

時間	演題・講師（敬称略）		
8:45	出欠確認開始		
9:00 (途中休憩あり)	講演	「医療安全への組織的取り組み －臨床工学の立場から考える医療安全－」	
	講師	相嶋一登	横浜市立市民病院臨床工学部 技士長 東京工科大学医療保健学部 臨床教授
11:10頃	休憩(10分程度)		
11:20頃	講演	「医療安全への組織的取り組み －薬剤師の立場から考える医療安全－」	
	講師	新井亘	上尾中央総合病院 薬剤部 部長 医療機器産業研究所 主任研究員
12:20頃	休憩(60分程度)		
13:20頃	講演	「医療安全への組織的取り組み －薬剤師の立場から考える医療安全－」	
	講師	新井亘	上尾中央総合病院 薬剤部 部長 医療機器産業研究所 主任研究員
14:20頃	休憩(10分程度)		
14:30頃 (途中休憩あり)	講演	「医療安全のための職員研修の企画・運営」	
	講師	中村京太	横浜市立大学 附属市民総合医療センター医療の 質・安全管理部 部長 診療教授
16:40	終了		

● 3日目

時間	演題・講師（敬称略）		
8:45	出欠確認開始		
9:00 (途中休憩あり)	講演	「医療安全への取り組みの実際」	
	講師	浦崎哲哉	中東遠総合医療センター 副院長兼医療安全管理室長
11:10頃	休憩(10分程度)		
11:20頃	講演	「施設に応じた院内救急対応システムの導入と運用」	
	講師	内藤貴基	聖マリアンナ医科大学 救急医学 助教
12:20頃	休憩(60分程度)		
13:20頃	講演	「施設に応じた院内救急対応システムの導入と運用」	
	講師	内藤貴基	聖マリアンナ医科大学 救急医学 助教
14:20	休憩(10分程度)		
14:30頃 (途中休憩あり)	講演	「医療安全への組織的取り組み －職種を横断した安全管理体制の構築－」	
	講師	浦松雅史	東京医科大学 医療の質・安全管理学分野 准教授
16:40頃	休憩(10分程度)		
16:50頃 (途中休憩あり)	講演	「医療事故調査制度の正しい理解と医療安全管理者の役割」	
	講師	宮田哲郎	一般社団法人日本医療安全調査機構 常務理事
18:30頃	終了		

● 4日目

時間	演題・講師（敬称略）		
8:45	出欠確認開始		
9:00 (途中休憩あり)	講演	「医療現場における法的責任と紛争防止に向けた取り組み」	
	講師	小島崇宏	大阪 A&M 法律事務所 医師・弁護士
11:10 頃	休憩(10分程度)		
11:20 頃	講演	「事故当事者への対応 -ピアサポートのしくみと過程-」	
	講師	井上真智子	浜松医科大学 地域家庭医療学講座 特任教授
12:20 頃	休憩(60分程度)		
13:20 頃	講演	「事故当事者への対応 -ピアサポートのしくみと過程-」	
	講師	井上真智子	浜松医科大学 地域家庭医療学講座 特任教授
14:20 頃	休憩(10分程度)		
14:30 頃 (途中休憩あり)	講演	「医療メディエーション -対話と関係調整のモデル-」	
	講師	和田仁孝	早稲田大学大学院 法務研究科 教授 日本医療メディエーター協会 代表理事
18:30	終了		

● 5日目

時間	演題・講師（敬称略）		
8:45	出欠確認開始		
9:00 (途中休憩あり)	講演	「医療機関におけるサイバー攻撃の脅威とその対策」	
	講師	SOMPO リスクマネジメント株式会社	
10:40 頃	休憩(10分程度)		
10:50 頃	講演	「医療事故における対応」	
	講師	SOMPO リスクマネジメント株式会社	
11:50 頃	休憩(60分程度)		
12:50 頃	講演	「医療事故における対応」	
	講師	SOMPO リスクマネジメント株式会社	
13:50 頃	休憩(10分程度)		
14:00 頃 (途中休憩あり)	講演	「医療安全を推進するコミュニケーションスキル」	
	講師	SOMPO リスクマネジメント株式会社	
16:10 頃	休憩(10分程度)		
16:20 頃 (途中休憩あり)	講演	「苦情対応のポイントー初期対応から院内暴言・暴力対応までー」	
	講師	SOMPO リスクマネジメント株式会社	
18:30	終了		

\* 時間は若干前後する可能性があります。

\* 90分を超える講演では、区切りの良いところで10分弱の途中休憩を設けております。

\* プログラムの順序は募集時と異なる部分があります。

(3) 演習 2024年12月5日(木)

時間	演題・講師	
9:15	開会(出欠確認含む)	
9:30 (途中休憩あり)	講演	「医療事故調査に必要な視点と考え方 -分析事例の選択と情報収集-」 ・エラー発生メカニズムと事故の構造の理解 ・医療現場に潜むリスクの把握 ・分析事例の選択と当事者へのヒアリング ・情報の整理-流れ図作成-
	講師	SOMPO リスクマネジメント株式会社
11:40頃	休憩(60分程度)	
12:40頃 (途中休憩あり)	演習	「医療事故調査に必要な視点と考え方 -VA-RCAの実践-」 ・事例分析の実際と事故防止対策の立案
	講師	SOMPO リスクマネジメント株式会社
17:10	終了	

\* 時間は若干前後する可能性があります。

\* 講演では、区切りの良いところで10分弱の途中休憩を設けております。

\* 演習では、区切りの良いところで10分弱の途中休憩を3回設けております。

\* プログラムの順序は募集時と異なる部分があります。

(参考:プログラムの詳細について)

<b>講義 35 時間 (計 5 日間)</b>
<b>日程 A : 2024 年 11 月 11 日 (月) ~11 月 15 日 (金)</b> <b>日程 B : 2024 年 11 月 25 日 (月) ~11 月 29 日 (金)</b> ※日程 A、日程 B は同内容です。
職種横断的な医療安全活動の推進や部門を超えた連携を実現するために、医療安全の基礎と安全管理体制の構築に必要な知識や考え方を学び、チーム医療、事故対応等の具体的場面から、医療安全管理者として特に必要とされる実践力について学ぶ講義中心のプログラム。
1 日目 8:30 開会 出欠確認
『これまでの医療安全の変遷と展望』 「医療安全」の契機となった医療事故を踏まえ、我が国のこれまでの医療安全施策と、今後これまで以上に医療の「質」と「安全」が求められていくなかで、何をなすべきか最新の医療安全情報を提供しながら活動を推進するためのポイントを解説する。
『ヒューマンエラーと医療安全』 医療事故発生の機序や人間の能力の特性や限界を理解し、医療事故を誘発するヒューマンエラー等に関する基礎知識についてポイントを解説する。
『医療安全管理の基礎知識と医療安全管理者の役割』 医療安全を取り巻く状況は変化し続けており、それに伴い医療安全管理者に様々な期待が寄せられている。医療安全管理者として、医療の質を高めると同時に、より安全な医療を提供するためになすべきことについて医師の立場から解説する。
2 日目 8:45~ 出欠確認
『医療安全への組織的取り組み - 臨床工学の立場から考える医療安全 - 』 医療安全活動は単一職種や、固有の組織だけで実施するものではなく、病院全体での取組や多職種からの視点による改善が求められる。臨床工学技士の立場から、医療機関における好事例の紹介や、活動進展に向けての参考となる情報を提供する。
『医療安全への組織的取り組み - 薬剤師の立場から考える医療安全 - 』 医療安全活動は単一職種や、固有の組織だけで実施するものではなく、病院全体での取組や多職種からの視点による改善が求められる。薬剤師の立場から、医療機関における好事例の紹介や、活動進展に向けての参考となる情報を提供する。
『医療安全のための職員研修の企画・運営』 より安全で質の高い医療を提供することを目的として、医療安全担当者が院内で職員研修を企画・運営するにあたり、テーマの選択や実施形態、学習意欲向上の方法等の具体的な手順や考え方を解説する。
3 日目 8:45~ 出欠確認
『医療安全への取り組みの実際』 医療機関で医療安全を担当している医師から、自院における取り組み事例を踏まえた、医療安全の推進方法及び組織的な活動等を解説する。
『施設に応じた院内急変対応システムの導入と運用』 昨今、院内心停止になる前に早期に患者の異変に気づき、心停止になる前に介入することで予後を改善するシステムである RRS の普及が進んでいる。医療安全に対する院内の文化を変える可能性を持っている RRS の導入にあたって必要なノウハウについて解説する。
『医療安全への組織的取り組み - 職種を横断した安全管理体制の構築 - 』 医療安全活動は単一職種や、固有の組織だけで実施するものではなく、病院全体での取組や多職種からの視点による改善が求められる。事故予防及び再発防止のための、医療事故事例やヒヤリ・ハット事例の報告と共有の仕組みづくりを通じて、職種を横断した安全管理体制の構築方法について解説する。
『医療事故調査制度の正しい理解と医療安全管理者の役割』 医療事故調査制度の概要及び同制度の対象となる事案の対応に求められる知識を整理し、医療安全管理者が知っておくべき現状と課題、院内体制の整備に役立つポイントを解説する。

#### 4 日目 8:45～ 出欠確認

##### 『医療現場における法的責任と紛争防止に向けた取り組み』

医療現場において、法的責任の有無に関わらず訴訟が起きている現状がある。無用なトラブルや紛争を予防・回避するために、医療者として知っておくべき正しい対応のポイントを解説する。

##### 『事故当事者への対応-ピアサポートのしくみと過程-』

医療有害事象が発生したとき、患者遺族はもちろん、事故に直面した医療者も深く傷つき苦悩することになる。そのような医療者を、Second Victim（第2の被害者）として位置づけ、その救済のためのシステムを院内で構築するための考え方を解説する。

##### 『医療メディエーション - 対話と関係調整のモデル -』

患者と医療者の対話を促し、情報共有を進めることにより、異なる物語によって構成されている認知の齟齬を埋め、認識の共有化を図る医療メディエーションの本質について総合的な解説をする。

#### 5 日目 8:45～ 出欠確認

##### 『医療機関におけるサイバー攻撃の脅威とその対策』

医療機関に対するサイバー攻撃の現状と医療現場において実施しておくべき事項について、病院組織と職員個人のそれぞれの視点で注意すべきことがらを解説する。

##### 『医療事故における対応』

医療事故発生から解決までの全体像と対応すべき事項、法律上の賠償責任の考え方、患者側への対応方法について解説する。

##### 『医療安全を推進するコミュニケーションスキル』

コミュニケーションは、患者・家族との関係においても職員同士の関係においても重要な課題である。医療現場の具体的なシーンを想定した映像視聴等によって、その重要性、難しさ、エラー防止のポイントを解説する。

##### 『苦情対応のポイント - 初期対応から院内暴言・暴力対応まで -』

セミナー形式の講義で、苦情対応として最低限やっておくべきことや苦情受付時における基本について解説する。またよりハードなクレームや院内暴力への組織的な対応についても解説し、苦情対応スキル向上のための課題を整理する。

### 演習 6 時間（計 1 日間）

**2024 年 12 月 5 日（木）**

医療安全に資する情報収集と分析、対策立案、評価といった実務的な活動を行うため、演習でのグループワークを通じて医療事故調査に必要な視点と考え方、スキルについて習得するためのプログラム。

9:15 開会 出欠確認

##### 『医療事故調査に必要な視点と考え方 - 分析事例の選択と情報収集 -』

医療機関において、インシデントや事故が発生した際には該当事例を分析し、再発防止に向けての対策を取る必要がある。報告制度の望ましい運用を理解した上で、エラー発生に至るメカニズムを踏まえた情報収集の在り方や、当事者に配慮した対応について学習する。

##### 『医療事故調査に必要な視点と考え方 - VA-RCA の実践 -』

分析の優先順位づけを行いワークで得られた情報を基に、現場での事例分析の進め方や対策立案のポイントをグループワーク形式の演習により学習する。